

# 経営比較分析表（令和3年度決算）

岡山県 鏡野町

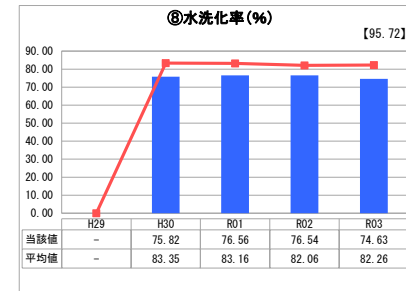
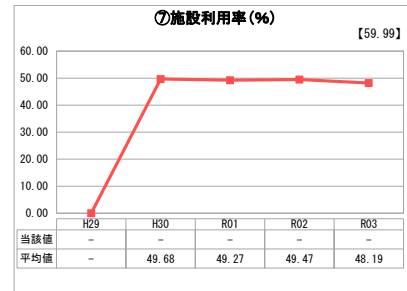
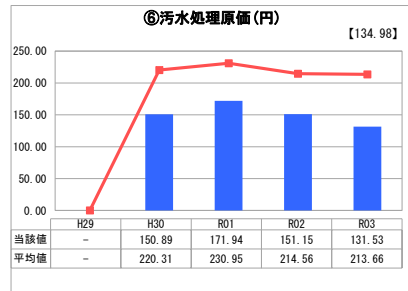
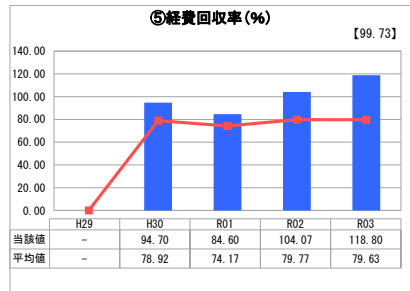
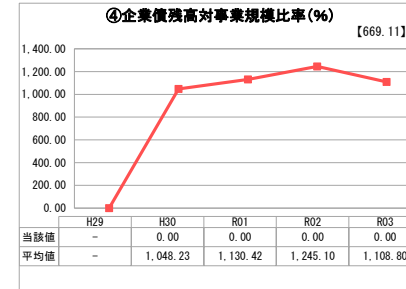
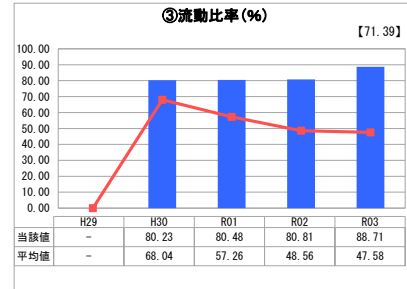
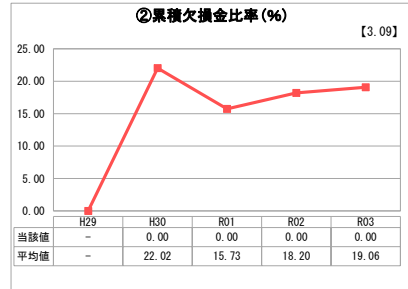
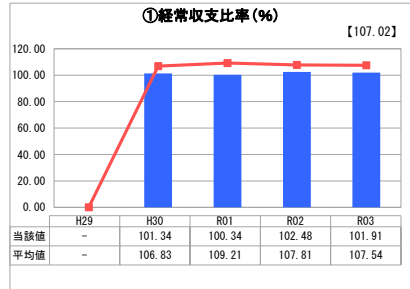
| 業務名       | 業種名         | 事業名    | 類似団体区分 | 管理者の情報                         |
|-----------|-------------|--------|--------|--------------------------------|
| 法適用       | 下水道事業       | 公共下水道  | Cd2    | 非設置                            |
| 資金不足比率(%) | 自己資本構成比率(%) | 普及率(%) | 有収率(%) | 1か月20m <sup>3</sup> 当たり家賃料金(円) |
| -         | 53.24       | 62.18  | 100.00 | 3,630                          |

| 人口(人)      | 面積(km <sup>2</sup> )     | 人口密度(人/km <sup>2</sup> )      |
|------------|--------------------------|-------------------------------|
| 12,610     | 419.68                   | 30.05                         |
| 処理区域内人口(人) | 処理区域面積(km <sup>2</sup> ) | 処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> ) |
| 7,806      | 3.97                     | 1,966.25                      |

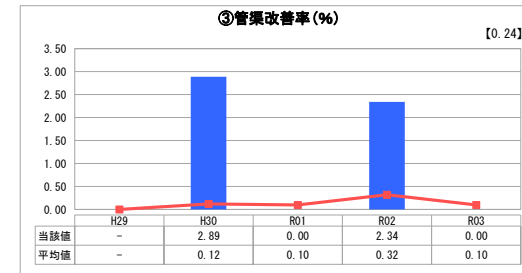
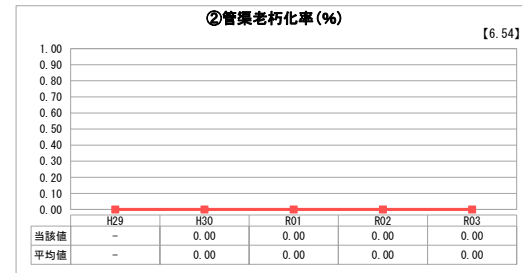
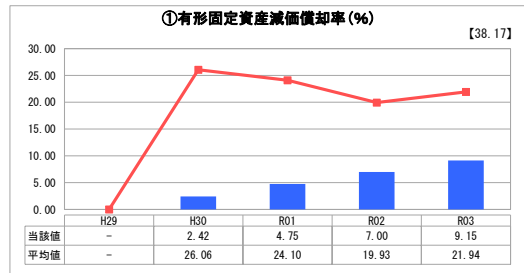
**グラフ凡例**

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和3年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率  
おおむね100%で推移している。総収益のうち会計からの補助金が19.62%占めている。

② 累積欠損金比率  
現在、累積欠損金は発生していないが、マンホールポンプ機器の更新や修繕費用が増加しているため、ストックマネジメント計画を策定し、修繕費用の平準化等、効果的な機器の更新を行なう。

③ 流動比率  
100%に満たないもののわずかに向上した。

④ 企業債残高対事業規模比率  
平成30年度より比率は、0%となっているが、必要な更新を先送りしているためであり、今後においても必要最低限の更新を行い、経営の健全化を図っていく。

⑤ 経費回収率  
令和2年度における使用料の改定や、供用開始区域の拡張により、収入は増加している。また、臨時的な費用がなかったため増加した。

⑥ 汚水処理原価  
経費回収率と同じく、使用料収入は増加した中で、臨時的な費用がなかったため減少した。

⑦ 施設利用率  
津山浄化センター（津山市）に接続しているため、0%である。

⑧ 水洗化率  
既整備地区の水洗化人口は増加しているが、面整備による新たな整備済地区も増加しているため、前年度並みの推移にとどまっている。

### 2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率  
類似団体平均値と比較して大きく低い理由は、整備年が遅いことと、処理場がなく、耐用年数の短い電気機械設備が少ないためである。

② 管渠老朽化率  
耐用年数を経過した管渠がないため発生していない。

③ 管渠改善率  
令和3年度は、管渠の更新を行っていない。必要があればその都度更新を行っていく。

### 全体総括

当町の下水道4事業のうち、公共下水道事業は、住宅密集地区であるため、経営は比較的良好である。

今後は、管路の老朽化、マンホールポンプ設備の更新が発生するため、ストックマネジメント計画を策定し、費用の平準化を図り、併せて維持管理に係る経費削減に努める。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。

# 経営比較分析表（令和3年度決算）

岡山県 鏡野町

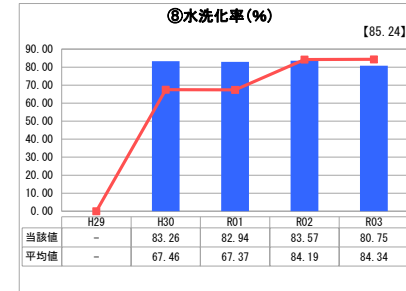
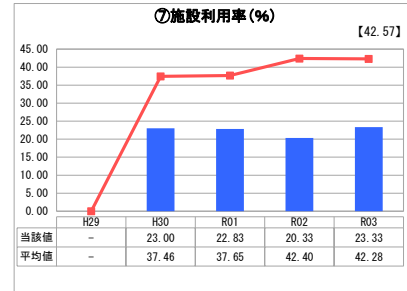
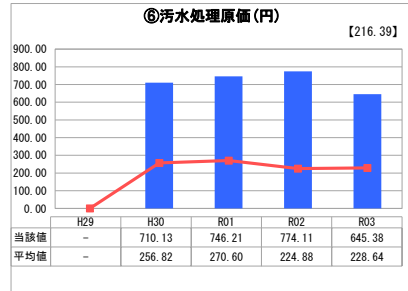
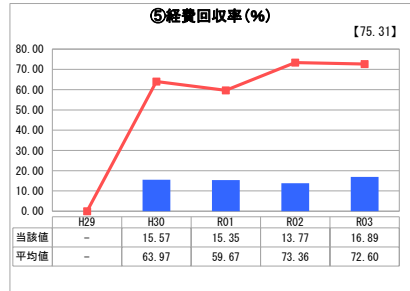
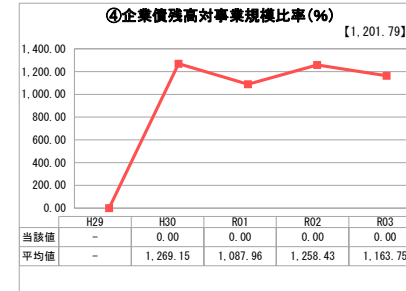
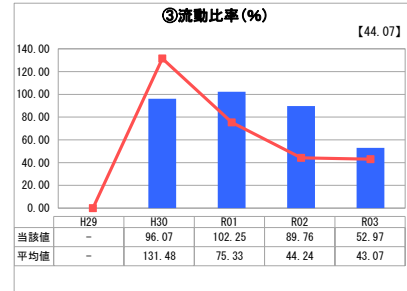
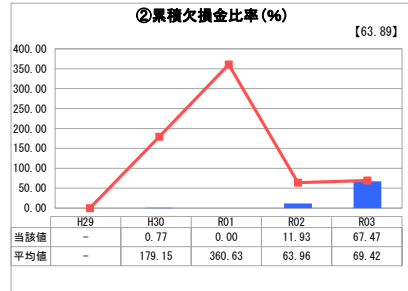
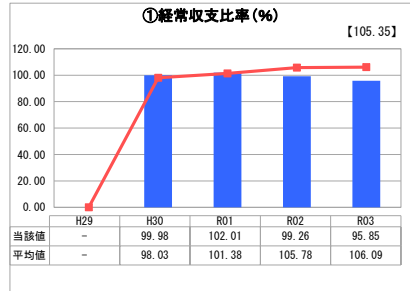
| 業務名        | 業種名          | 事業名         | 類似団体区分  | 管理者の情報                         |
|------------|--------------|-------------|---------|--------------------------------|
| 法適用        | 下水道事業        | 特定環境保全公共下水道 | D2      | 非設置                            |
| 資金不足比率 (%) | 自己資本構成比率 (%) | 普及率 (%)     | 有収率 (%) | 1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円) |
| -          | 63.24        | 1.70        | 100.00  | 3,630                          |

| 人口 (人)      | 面積 (km <sup>2</sup> )     | 人口密度 (人/km <sup>2</sup> )      |
|-------------|---------------------------|--------------------------------|
| 12,610      | 419.68                    | 30.05                          |
| 処理区域内人口 (人) | 処理区域面積 (km <sup>2</sup> ) | 処理区域内人口密度 (人/km <sup>2</sup> ) |
| 213         | 0.16                      | 1,331.25                       |

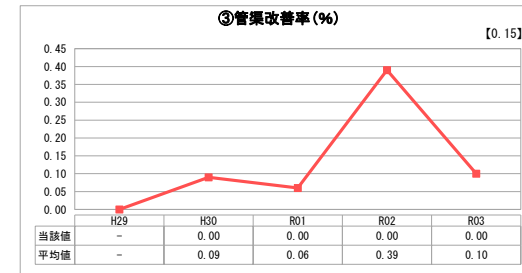
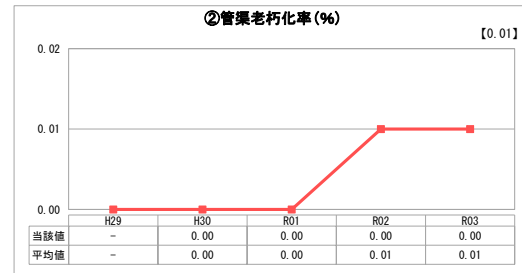
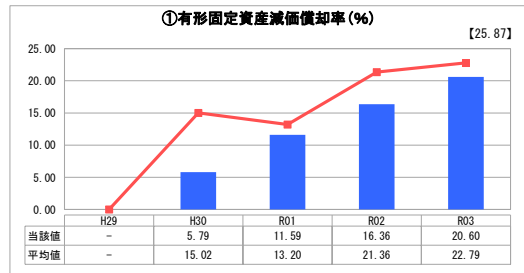
**グラフ凡例**

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 令和3年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率  
令和3年度においては、新型コロナウイルス感染症対策により観光施設の利用が落ち込み、料金収入が減少したものの、概ね100%を維持している。なお、総収益のうち、他会計からの補助金が43.52%を占めている。

② 累積欠損金比率  
現在、累積欠損金は発生していないが、処理施設における機器の更新や修繕費用が増加しているため、ストックマネジメント計画を策定し、修繕費用の平準化等、効果的な機器の更新を行なう。

③ 流動比率  
近隣の農業集落排水処理区を取り込んだことにより建設改良費が発生したため、減少となった。

④ 企業債残高対事業規模比率  
平成30年度より比率は、0%となっているが、必要な更新を先送りしているためであり、今後においても必要最低限の更新を行い、経営の健全化を図っていく。

⑤ 経費回収率  
昨年度比で微増ではあるが、類似団体平均値よりも大きく差がある。近接処理区の統合による経費の増加を防ぐため、経営の健全化を図っていく。

⑥ 汚水処理原価  
昨年度比で微減となったが、類似団体平均値より著しく高額になっている。今後は、維持費の効率化等により経営の健全化を図っていく。

⑦ 施設利用率  
事業計画時に比べ、観光施設が減少し、汚水量が減少したため、処理施設の利用率が低下している。近接処理区との統合による稼働率の向上を見込んでいる。

⑧ 水洗化率  
令和3年度の水洗化率は、類似団体平均値に追従している。人口の減少等による水洗化率の減となったが、引き続き、水洗化の普及に努める。

### 2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率  
類似団体平均値と比べ、わずかに下回っているが、上昇傾向であるため、10年経過を目的に処理施設機器等の更新計画を検討する必要がある。

② 管渠老朽化率  
耐用年数を経過した管渠がないため、発生していない。

③ 管渠改善率  
整備年が遅く、更新することがないため実績がない。

### 全体総括

当町の下水道4事業のうち、特定環境保全公共下水道は、区域内人口が少なく、また、事業計画時にあった観光施設も事業縮小や廃業が続き、経費回収率の向上が困難な状態である。  
隣接する農業集落排水処理区の統合を行うことで料金収入を増加させ、併せて維持管理に係る経費削減に努める。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。

# 経営比較分析表（令和3年度決算）

岡山県 鏡野町

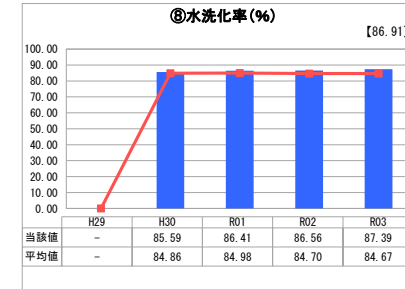
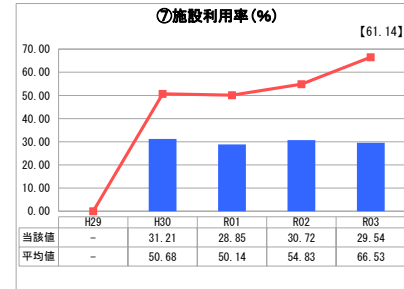
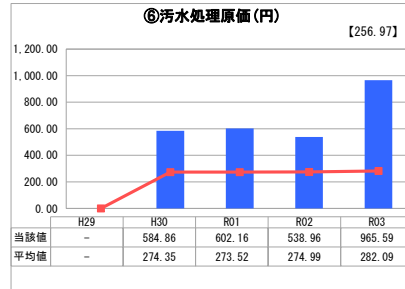
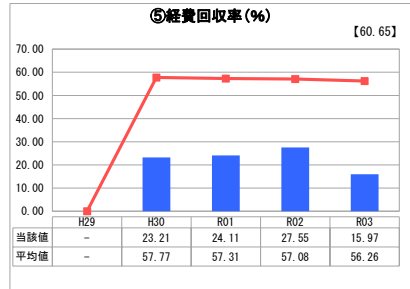
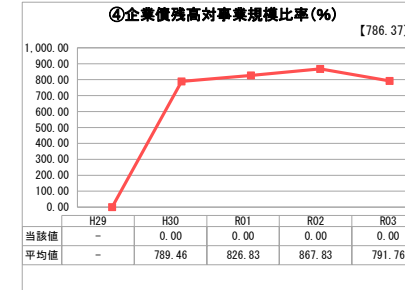
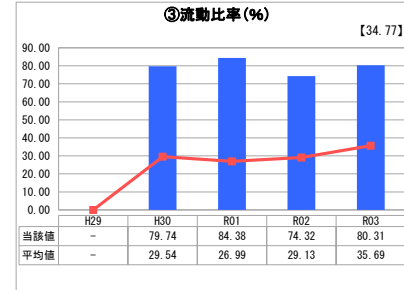
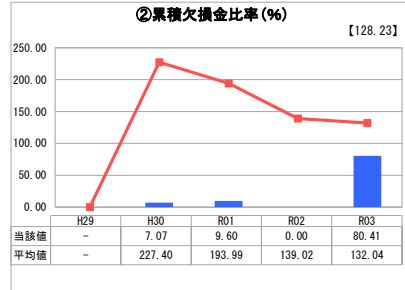
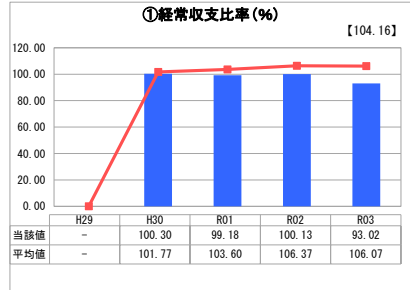
| 業務名       | 業種名         | 事業名    | 類似団体区分 | 管理者の情報                         |
|-----------|-------------|--------|--------|--------------------------------|
| 法適用       | 下水道事業       | 農業集落排水 | F2     | 非設置                            |
| 資金不足比率(%) | 自己資本構成比率(%) | 普及率(%) | 有収率(%) | 1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円) |
| -         | 65.32       | 16.04  | 100.00 | 3,630                          |

| 人口(人)      | 面積(km <sup>2</sup> )     | 人口密度(人/km <sup>2</sup> )      |
|------------|--------------------------|-------------------------------|
| 12,610     | 419.68                   | 30.05                         |
| 処理区域内人口(人) | 処理区域面積(km <sup>2</sup> ) | 処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> ) |
| 2,014      | 1.10                     | 1,830.91                      |

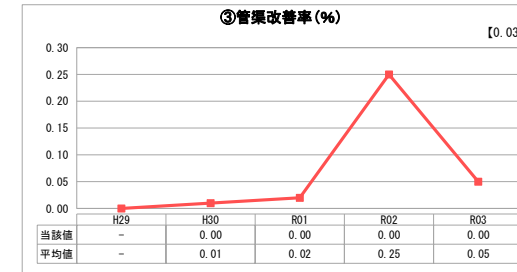
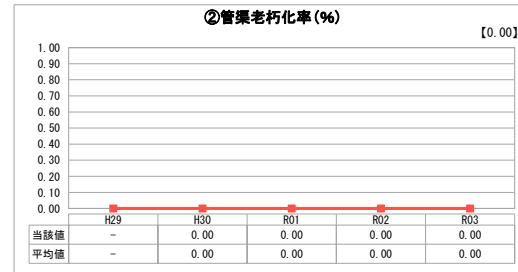
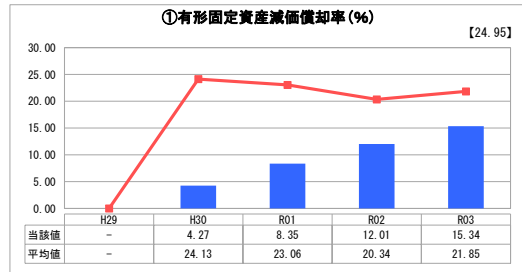
**グラフ凡例**

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和3年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率  
概ね100%で推移している。総収益のうち、他会計からの補助金が29.46%を占めている。

②累積欠損金比率  
令和3年度は、老朽化等による機器の更新や修繕費用が増加した。今後増加する見込みである。

③流動比率  
類似団体平均値よりは高い傾向にあるが、企業債の償還が続く。今年度より機能強化事業にて借入を行った起債の償還が開始された。

④企業債残高対事業規模比率  
当町の比率は、0%となっているが、必要な更新を先送りしているためであり、今後においても必要最低限の更新を行い、経営の健全化を図っていく。

⑤料金回収率  
類似団体平均値よりも大きく差がある。処理区の統合により、経費の軽減を行う等、経営の健全化を図っていく。

⑥汚水処理原価  
類似団体平均値より著しく高額となっている。汚水処理費の高騰によるもので、今後処理区の統合などにより経営の健全化を図っていく。

⑦施設利用率  
事業計画時に比べ、人口の減少により、汚水量が減少したため、処理施設の利用率が低下している。近接処理区との統合による稼働率の向上を見込んでいる。

⑧水洗化率  
類似団体平均値と同水準で比較的高水準となっている。今後についても地区内の水洗化に努める。

### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率  
類似団体平均値と比較して、低い水準となっているものの類似団体平均値は減少傾向にある中で、鏡野町は上昇傾向にあるため、今後の更新計画を策定し、改善をする必要がある。

②管渠老朽化率  
耐用年数を超過した管渠が無いため、発生していない。

③管渠改善率  
整備から年数が経過していないため、更新を行っていない。

### 全体総括

当町の下水道4事業のうち、農業集落排水事業は、そのほとんどの事業区域が過疎地域であり、また地形の性質上、マンホールポンプが多く、その維持管理費が増大となっているため、経費回収率の向上が困難な状態である。隣接処理区の統合を進め、維持管理に係るコスト削減に努める。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。

# 経営比較分析表（令和3年度決算）

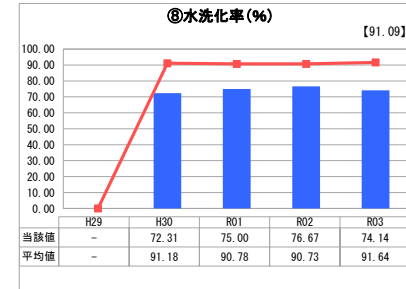
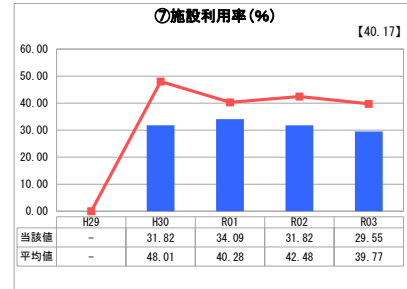
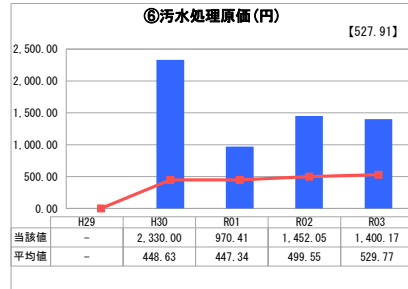
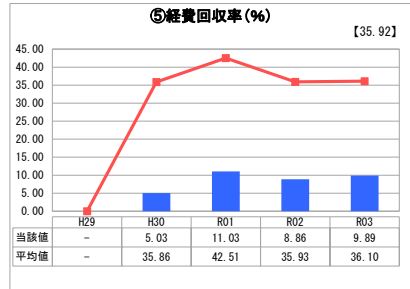
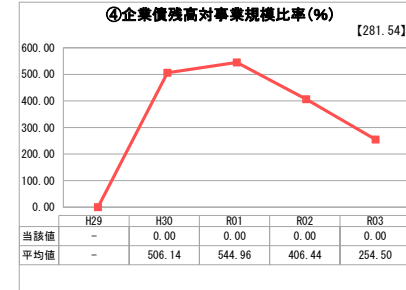
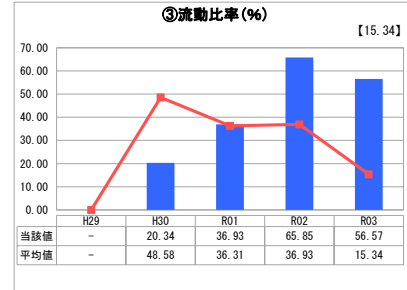
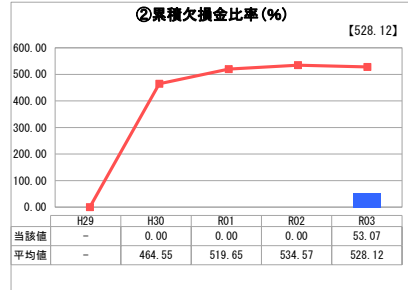
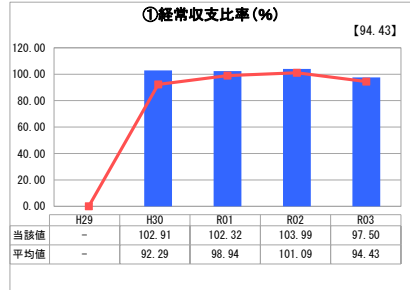
岡山県 鏡野町

| 業務名       | 業種名         | 事業名    | 類似団体区分 | 管理者の情報                         |
|-----------|-------------|--------|--------|--------------------------------|
| 法適用       | 下水道事業       | 林業集落排水 | G2     | 非設置                            |
| 資金不足比率(%) | 自己資本構成比率(%) | 普及率(%) | 有収率(%) | 1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円) |
| -         | 77.83       | 0.46   | 100.00 | 3,630                          |

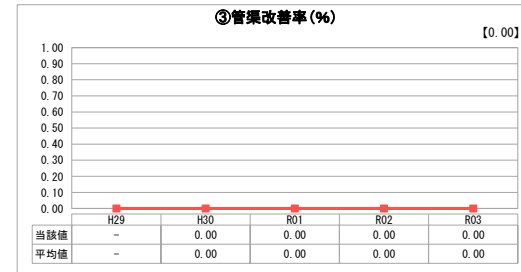
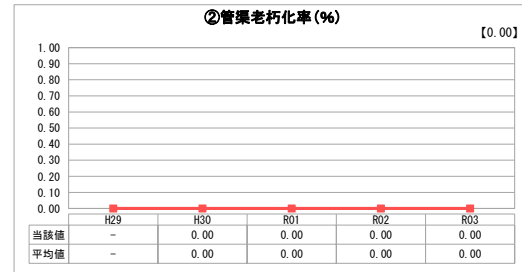
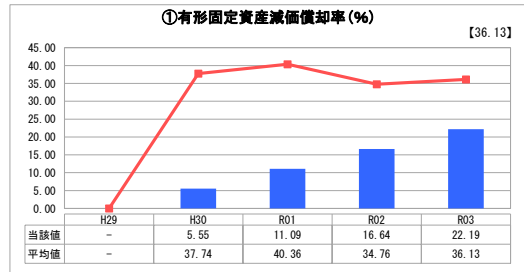
| 人口(人)      | 面積(km <sup>2</sup> )     | 人口密度(人/km <sup>2</sup> )      |
|------------|--------------------------|-------------------------------|
| 12,610     | 419.68                   | 30.05                         |
| 処理区域内人口(人) | 処理区域面積(km <sup>2</sup> ) | 処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> ) |
| 58         | 0.11                     | 527.27                        |

| グラフ凡例 |              |
|-------|--------------|
| ■     | 当該団体値（当該値）   |
| —     | 類似団体平均値（平均値） |
| [ ]   | 令和3年度全国平均    |

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率  
概ね類似団体平均値と同程度で推移している。総収益のうち、他会計からの補助金が41.54%を占めている。
- ② 累積欠損金比率  
令和3年度は、老朽化等による機器の更新や修繕費用が増加した。今後も増加する見込みである。
- ③ 流動比率  
類似団体平均値よりは高い傾向にあるが、企業債の償還が続き、今後もゆるやかに減少する。
- ④ 企業債残高対事業規模比率  
当町の比率は、0%となっているが、大規模な更新を先送りしているためであり、今後においても必要最低限の更新を行い、経営の健全化を図っていく。
- ⑤ 料金回収率  
類似団体平均値よりも大きく差がある。処理区内の人口の減少による料金収入の減少であり、今後、処理方式の検討を含めて検討していく必要がある。
- ⑥ 汚水処理原価  
類似団体平均値より著しく高額となっている。機器更新等の維持管理費の発生によるものである。
- ⑦ 施設利用率  
事業計画時に比べ、人口の減少により、汚水量が減少したため、処理施設の利用率が低下している。
- ⑧ 水洗化率  
類似団体平均値と比べ、低水準となっている。今後についても地区内の水洗化に努める。

### 2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率  
類似団体平均値と比較して低い水準にあるものの鏡野町は上昇傾向にあるため、今後の更新計画を策定し、改善を必要とする必要がある。
- ② 管渠老朽化率  
耐用年数を経過した管渠が無いため、発生していない。
- ③ 管渠改善率  
整備から年数が経過していないため、更新を行っていない。

## 全体総括

当町の下水道4事業のうち、林業集落排水事業は、事業区域が過疎地域であり、また地形の性質上、比較的マンホールポンプが多く、その維持管理費が増大となっているため、経費回収率の向上が困難な状態である。  
処理方法を改めて検討していく必要がある。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。